発行：2024年7月22日

研究所だより 38号

明治学院大学
社会学部付属研究所

〒108-8636　東京都港区白金台 1-2-37
TEL　03-5421-5204・5205
メールアドレス　issw@soc.meijigakuin.ac.jp
ホームページ　https://soc.meijigakuin.ac.jp/fuzoku/

所長ごあいさつ

本年４月より、２年ぶり・２度目の所長職を拝命いたしました。前回の任期中（2020 年度～ 21 年度）には突然のコロナ禍に遭遇し、世界中の人や組織と同様、当研究所も様々な対応（対面イベントの見直し、通常業務のテレワーク化、会議のオンライン化等々）に追われました。その過程では、活動規模の縮小を強いられたり、予期せぬトラブルに見舞われることもありました。幸いなことに、現在はほとんどの活動が「正常化」されています。調査・研究部門では、コロナ禍の中では困難だったフィールド調査が再開され、相談・研究部門でも、研修会や学習会といったイベントを対面で開催することができるようになりました。しかし単に元通りになったのではありません。たとえば学内学会部門では、現役学生諸君の活動が以前よりずっと活発になり、年一回の研究発表会も盛況です。貴重な学生時代に、授業のオンライン化とサークル活動の制限のため、生身の人と人として接する機会を奪われた若者たちが、逆境の中から何を生み出していくのか。一社会学者として興味を引かれると同時に、当研究所としてもその活動を支援していきたいと思います。

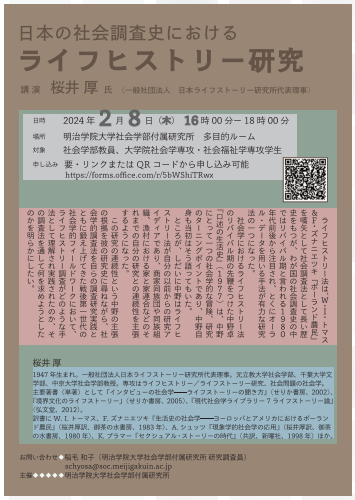
社会学部付属研究所　所長　加藤　秀一

各部門主任報告

調査・研究部門

調査・研究部門は２つの柱を中心に活動しています。１つは調査・研究プロジェクトで、2023年度は、特進PJ（B）と６つの一般PJが実施されました。それぞれの活動内容については本紙で紹介されています。2024年度は、４つの一般PJが活動を開始しています。

もう１つの柱は、講演会・研究会等の実施です。2023年度は、桜井厚先生（日本ライフストーリー研究所代表理事）をお迎えし、「日本の社会調査史におけるライフヒストリー研究」というテーマで、森岡清美先生と中野卓先生の足跡を中心にご講演いただきました。理論的な位置付けと、調査手法や対象者との関係への考え方との両面から考察する充実した内容で、質疑も熱のこもったものになりました。（主任：藤川 賢）



2023年度の講演会案内

相談・研究部門

相談・研究部門では、Ⅰ．相談活動、Ⅱ．講座・研修活動、Ⅲ．卒後支援、Ⅳ．研究活動を行っています。

2023年度は、Ⅱ．講座・研修活動で、「地域創り担い手学習会」と「社会福祉実践家のための臨床理論・技術研修会」を行い、多くの皆様にご参加いただきました。また、新たにⅢ．卒後支援に取り組みました。「社会福祉分野の仕事をしている社会学部卒業生」を対象に、日々の実践の振り返りや学び、卒業生同士が語り合う場として「明学ソーシャルワーカーのつどい」、さらに定期的な取り組みとして小規模の「明学ソーシャルワーカーカフェ」を開催しています。

2024年度も、同様に取り組んでいく予定です。皆様のご参加をお待ちしています。（主任：三輪清子）

明学ソーシャルワーカーのつどい

学内学会部門

明治学院大学社会学・社会福祉学会（通称：学内学会）の2023年度の活動は、10月に卒業生部会と学生部会が合同で「ヤングケアラー」をテーマとした講演会を開催し、小田桐麻未氏（ヤングケアラー協会）にお話をいただきました。12月に開催された研究発表会では、３つの分科会で合計22件（ゼミ７件、実習クラス２件、個人13件）の報告が行われ、それぞれの分科会で活発な議論が交わされました。

その他、６月の総会では石原英樹教授（社会学科）に「性的マイノリティをめぐる寛容性と不可視性」をテーマに特別講演をいただき、また昨年同様、『Socially+』を年度末に発刊しました。さらに、学生部会（通称：STEP）には新入生が23名加わり、活発に活動を行っています。どうぞ、引き続きご支援のほど、よろしくお願い致します。

（主任代行：和気康太）

特別講演会（2023年度）

2023年度一般プロジェクト報告

リスク認識の環境正義に関する比較研究

本プロジェクトの目的は、環境正義の観点からリスク認識とその共有可能性を高めていくことである。堀田恭子氏、木村元氏との共同で、PFASなどの化学物質とアスベストを事例に比較研究を進めた。気候変動や重金属などの先行研究も参照に、科学的評価と社会的背景との関係を歴史的に検討している。（代表：藤川 賢）

硫黄島民同郷団体史に関する資料基盤整備
ー全国硫黄島島民３世の会と協働してー

全国硫黄島島民３世の会との共同研究プロジェクトとして、１月20日にシンポジウム「戦争、国家、失われた故郷ー北方領土×硫黄島」、２月17日に「硫黄島強制疎開80周年記念シンポジウム」を開催した。どちらも多数の参加があり、報道でも大きく取り上げられた。八重山平和祈念館の企画展「強制疎開ー八重山と小笠原・硫黄島」の監修も務めた。複数年にわたる一般プロジェクトの集大成の１年であった。（代表：石原 俊）

ヒト生殖細胞系列のゲノム編集をめぐる〈人々の形而上学〉の概念分析的研究

遺伝子改変技術の人間への応用は様々な倫理的問題を惹起するが、特に生殖細胞系列のゲノム編集は、その細胞から発生してくる個人の同一性そのものに影響を及ぼすがゆえに、人の同一性を前提とする「治療」とは異なる質をもつ。本プロジェクトはこの「非同一性問題」に関する先行文献を網羅的に検討した。（代表：加藤秀一）

生涯学習政策における社会的統合の方法と実際
ーデンマーク・成人教育センターの場合ー

デンマークの成人教育センターは、多文化化する社会のなかでその役割を変化させてきた。移民に厳しい政策の下で、外国人はいち早く労働者になることが期待される。成人教育センターは、彼らに必要となる学習プログラムを開発してきたが、これが社会的統合にどのような機能を果たしているのかを、本研究では検討している。（代表：坂口 緑）

千葉県君津市上総地域の地域づくりとイタリアの小都市構想（チッタスローとの関係性に関する実証研究
ーポジターノとアマルフィを事例としてー

2022-23年前半の千葉県上総（かずさ）地域における調査研究を前提として、９月中旬の２週間、イタリアの「チッタスロー政策」初発の町であるポジターノ市、同政策を後発の町として実践しているアマルフィ市への訪問と関係者へのインタヴュー、および史資料の収集を行いました。また、ミノーリ、マイオーリ、チェターラ、ヴィエトリ・スル・マーレなど、アマルフィ海岸で同政策を実施する町々の実地踏査も行いました。（代表：岩永真治）

配偶子提供を伴う生殖医療技術に関する課題の検討

配偶子提供を受けて子どもをもつ生殖医療技術がある。本プロジェクトでは、不妊治療として提供卵子によって母親になった女性へのインタビューを行った。さらに、再生医療技術によってマウスの配偶子形成を行っている研究者に、技術的・倫理的・社会的課題についてヒアリングをした。先行研究と実施中の調査を加えて成果を報告する。（代表：柘植あづみ）

2023年度特進プロジェクト報告

複合的課題を抱えた人々に対する持続可能な支援に関する研究

複合的課題を抱えたマイノリティが置かれた状況を把握し、支援を継続的に行なっていくための課題を明らかにするために、生活困窮者を支援している２団体、在日コリアン関連施設･機関３ヶ所でフィールドワークとインタビュー調査を実施した。当事者組織や民間団体が直面する困難や活動を継続していくための戦略などを把握するとともに、社会福祉の「正史」の外部におかれた豊かな実践を掘り起こすことの重要性や、宗教とソーシャルワークの関係性など、新たな研究テーマも立ち上がった。

（代表：宮﨑　理）

地域創り担い手学習会報告

相談・研究部門は、2021年度より「誰もが共に地域で自分らしく安心して暮らしていく」ことを目指し、様々な活動を続けています。2022年度の地域創り担い手学習会では、居場所づくりや孤立を防ぐ活動を取り上げました。続く2023年度は、そうした問題関心を持ちながら「ひきこもり」に焦点を当て、「ひきこもりなど生きづらさのある当事者の場づくりと地域社会」を開催しました。この続きとして、少人数の対話を重視した「連続学習会」を２回開催し、合計４名の当事者に話題提供をしていただきました。2024年度も学習会だけでなく、ソーシャルワーカー向けの研修会や、卒業生向けのイベントなどを開催予定です。詳しい情報は、相談・研究部門のSNSをご覧ください。

左：地域創り担い手学習会　右：連続学習会

公式SNS

LINE　Facebook　Instagram　X（Twitter）

2024年度社会学部付属研究所プロジェクトの紹介

一般プロジェクト

☆生活保護業務の現状と今後のあり方に関する研究
　ー生活保護担当職員の実践から考えるー
（代表　新保　美香）

☆ヒト生殖細胞系列のゲノム編集をめぐる〈人々の形而上学〉の概念分析的研究
（代表　加藤　秀一）

☆社会福祉士国家資格制度の制定と変遷に関する調査研究
　ー行政担当者等へのインタビュー調査を通じてー
（代表　和気　康太）

☆カンボジアにおける生活課題と社会福祉支援
　ー日本に移住する人々の母国での生活状況を理解するー
（代表　明石留美子）

2024年度社会学部付属研究所スタッフの紹介

所　　長	加藤　秀一
調査・研究部門主任	藤川　　賢
相談・研究部門主任	三輪　清子
学内学会部門主任	深谷　美枝
所　　員	松波　康雄
〃	榊原　美紀
〃	関水　徹平
〃	柘植あづみ
〃	佐藤　正晴
〃	和気　康太
研究調査員（調査・研究部門）	稲毛　和子
ソーシャルワーカー（相談・研究部門）	竹沢　昌子
助　　手	森　　香苗
教学補佐	坂本　啓子
学内学会部門事務担当	二木　鈴香